複刻

叢書 日本の童謡

■全38冊＋別巻解説書■上 笙一郎 編

童謡史を全貌し、未来へつなぐ虹色のコレクション

日本の心を奏でる珠玉のアンソロジー

全巻揃
残部
数組

（2023.7）

学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp

＊この案内は本書発刊時 のものです。
（大空社　1996-1997 年）

『叢書　日本の童謡』刊行にあたって

近代の日本は、世界史的に見て児童文化の豊かだった国のひとつであるが、数ある子どものための文化のうち、童謡は、芸術的にもっとも高度な達成を示したということができます。北原白秋・西条八十・野口雨情・三木露風などによって創られた童心鑽仰の美しい詩は、山田耕筰・中山晋平・本居長世・弘田竜太郎といった音楽家の手で曲をほどこされ、子どものみならず大人たちからも愛唱されて、〈国民文化〉の域にまで達していたのでした。

こうした近代日本の童謡の歩みを、当時刊行された童謡集や少年少女詩集を複製することで辿ってみたのが、この叢書「日本の童謡」です。明治末＝大正初頭の有本芳水の感傷的な少年詩に始まり、大正中期に「赤い鳥」その他の童話雑誌を舞台として大きく羽ばたいた童謡が、昭和前期に新世代を迎え、その間に歌人・童画家・大衆歌謡の作詞家などの参入を見て栄えて行った、その全歴史を目のあたりにすることができるでしょう。

数百部しか作られなかった本が多く、中には発売禁止処分を受けたものもあって、今日ではすべてが稀覯本中の稀覯本となっています。そしてそれらの童謡集や少年少女詩集は、いわゆる童画家や抒情画家の華麗なイラストレーションで飾られており、児童出版美術のすぐれた遺産としても価値あるものとなっています。

多くの人が、子どもの日に歌い馴染んだ童謡作品を元本のうちに確認し、自身の心情的アイデンティティを発見されますように。そして児童文化や教育研究者にとっても、この複刻叢書が各々の研究を一段と深める貴重な遺産となりますように。

児童文化史研究家
上笙一郎

『叢書　日本の童謡』を推薦します。

世界に比類ない美しく、宝玉のような詩集

藤田圭雄

大正七年七月、雑誌「赤い鳥」の創刊を機とし、北原白秋、西条八十、野口雨情を中心に華開いた童謡運動は、世界に比類ない美しく楽しい韻文活動として、子どもの世界に華やかな夢を描きつづけて来た。七音五音を中軸とする日本の韻文は、スタートの号砲と共に無数の詩人たちをレース線上に立たせた。それ以来百年近くの時代の波の中に、それら無数の作品は、簡素な姿のまま古書店の棚上に朽ち果てた物もあり、また、艶やかな画家の力添えもあって美しい色彩世界に生きているものもある。これら多く宝玉のような詩集の中には、今日滅多に目に触れることの出来ぬものも多い。今回上笙一郎のコレクションの扉が開かれ、その貴重な蔵書が原本そのままの姿で私共の机上にそれが飾られることは嬉しい。一九六九年、私はハワイ大学にいた。授業の間の時間は上原教授の部屋で休んでいた。その上原教授の編著書もここにある。

（日本児童文学者協会名誉会長）

日本の国民文化の童謡

倉澤栄吉

沖縄がまだ占領下にあった頃、日本政府は教育のレベルアップを図って「教育指導員」なるものを派遣した。その頃、文部省初中局に勤めていた私は、派遣団の一員として四ヶ月程滞在、現地の国語の先生方を相手に、伝達講習のような仕事をしたのであった。私は講習会の開始の冒頭、受講者と共に、日本の童謡を合唱するのを常とした。

まどみちお「ふしぎなポケット」巽聖歌「たき火」その他、雨情、白秋、八十の作品などが歌われた。

これら日本の童謡を口ずさむことによって私は、受講生とともに、国語教育研究の世界に、自然に入っていけたのである。学校教育だけではなく、わが国のすべての家庭や社会に童謡が歌い続けられていくように切望するものの一人である。

「赤とんぼ」が愛唱歌のトップにあるうちは、日本の国民文化は安泰である。

（日本国語教育学会会長）

深いよろこびを与えてくれる童謡

中川正文

私のようにハナハト読本で育ったものにとって、詩や歌は唱歌であり、わらべうたであった。いまでもその一節を聞いただけで、ぱっと全体が浮かびあがる。繰り返し声をだして読んでいたからだろう。

それはそれで意味あることであったと言えるが、今になって口惜しい思いをするのは、同じ時期に「赤い鳥」など刊行されていたことや、まして唱歌やわらべうたのほかに童謡というものがあって、盛んに愛誦されていたことを、殆ど知らずにいたということである。大人になって児童文学にかかわるようになって、やっと気がついて驚いたものだ。

その点このたびの複刻は、口惜しい思いをした私たちの世代に古典的な童謡集を提供して容易にこころを癒してくれるだけでなく、若い研究者や幸運な青少年にとって、すぐれた童謡との出合いが、いかに深いよろこびであるかを体験させてくれるに違いない。それは古典が現代にもしっかりと生きている証しであるし、また現代に生きているからこそ古典といえる当然のことに気づかせてくれる。

（日本児童文学学会会長）

＊この案内は
本書発刊時 のものです。
（大空社　1996-1997 年）

子どもの夢を豊かに育んだ時代の空気を共にする感動。

現代の子ども、親、教育者への大切な贈り物

中田喜直

今、再び童謡が新しい脚光を浴びるようになってきたこの時に、この素晴らしい「叢書 日本の童謡」が刊行されることは、非常に嬉しいことであり、その意義は非常に大きい。

十年程前は、童謡が殆ど忘れられ不遇な時期でもあった。日本童謡協会は各地の童謡愛好家や、団体、行政など理解のある人達と協力して、童謡の復興に力を入れてきた。その成果が次第に大きくなってきたようである。

私達は新しい現代の童謡の創作を重要な仕事としているが、それは明治・大正・昭和の輝かしい童謡の歴史があって、はじめて可能なことなのである。白秋、八十、雨情、山田耕筰、弘田龍太郎、本居長世等、当時の最高の芸術家によって作られた童謡。その全容が、さらに巾広く、奥深く見えてくるこの叢書。やさしい心、思いやりのある豊かな心を忘れた現代の子ども、親、教育者にとって大切な贈り物になることと思う。

（(社)日本童謡協会会長）

＜子どもの心に残る童謡＞を指標

大畑祥子

「童謡」という語句には、懐かしい響きがあり幼い日の思い出と重なります。それは歌であったり、挿絵とともに折々に楽しんだ本であったりしますが、その時の状況、情景も含めてよみがえって参ります。

子どもは小さな大人ではなく、子ども独自の世界をもっているという「子どもの発見」の時代、加えて大正期の芸術運動などの思潮を背景に、子どもの世界が、大人の夢とロマンをおりこんで童謡に謳いあげられました。

この豊かな「児童文化」としての近代童謡の歴史が、今では目にすることのできないものも含めて刊行されることの意義は大きく、研究書としてこの上ない貴重な資料となるに違いありません。心からの期待と敬意を表したいと思います。

歴史の中に未来の秘密が横たわっているといわれます。詩、歌、児童画などの各々の研究者にとりましても、子どもの心に残る童謡の少ない現状に、この「叢書 日本の童謡」は大きな指標となることでしょう。

（日本女子大学教授）

母から受け継ぐ感動を次世代へ

鷲津 名都江

一流の詩人たちが子どもたちのために詩をつくり、その詩に一流の作曲家たちが曲をつけた日本の童謡。どれ程多くの日本の子どもたちがその恩恵に浴してきたでしょうか。このように芸術の香の高い童謡は、世界の子どもの歌のなかでも稀有であると聞きました。しかしいつごろからか、"日本の童謡"と言えば"懐かしの"という言葉が添えられて現代の子どもにはアピールしないと思われるような風潮になり、残念です。

母から多くの童謡を聞いて育ち、併せてその挿絵や装丁の素晴らしさも聞きましたが、初山滋、武井武雄、蕗谷虹二……といった方たちの絵には、私もほとんど触れる機会がありませんでした。この復刻版により母と共通の感動を得られればと思っています。

そしてこの機会に、童謡をノスタルジアや研究材料として見るだけでなく、次の世代にも受け継がれていくよう、現代の子どもたちと共に味わって頂けたら……と願っています。

（目白女子短期大学助教授）

出した懐かしくも楽しい名作童謡詩集の数々

叢書 日本の童謡

■＝第1回配本 19冊
■＝第2回配本 19冊・別巻1

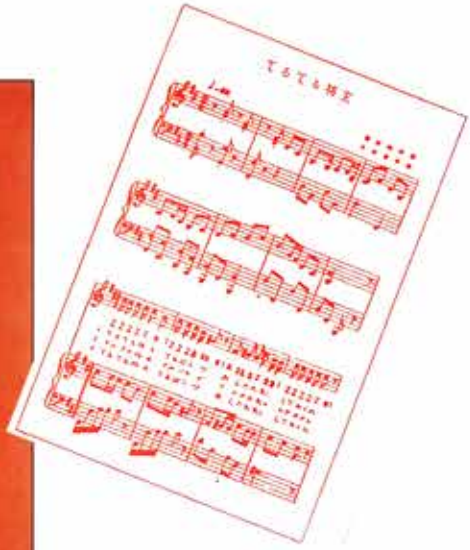
官製の唱歌ではなく、民間の子どものための詩が、芳水・水裏らによって芽ぶいていく。

■『詩集 ふる郷』白水芳水／装幀 川端龍子
大正七年三月 実業之日本社（解説 湯手惠里）
児童文学史における少年詩の母と評される芳水の第三詩集。詩集の序にあるように「幼き日の夢のかずかずを少年の日に吹きけける麦笛の如く歌い続け」、全国の少年少女読者の熱い支持を得た珠玉の詩編を収録。

■『日譜詩新体詩 浜千鳥』星野水裏
装幀・川端龍子
明治四四年七月 実業之日本社（解説 佐藤光一）
近代童謡の草創期を彷彿とさせる名作集。いずれの作品も少女の目から見た事物が可憐に描き出されている。楽しい問答形式の「この門あけてくださいな」「今宵は是処に宿りませ」も収録。

■『名作童謡 少年の歌』児玉花外
大正一一年四月 岡村書店（解説 谷悦子）
「東方の旭日と、桜の国に生れた、わが少年のために、愛と熱とをもつて歌つた詩です。」と巻頭言にあることく、少年の雄心を鼓舞する傑作童謡を集大成。「飛行文豪ダヌンチオを讃ふ詩」「熱血児高山彦九郎」など長吟六〇余編を収める。

子どもの詩情を育むため詩人・童話作家たちも大いに才を揮った。



浅原鏡村「青ぞらのとり」より

■『ひろすけ童謡集 小鳥と花と』浜田広介
画 初山滋
大正一四年六月 文教書院（解説 向川幹雄）
童話界の大御所・広介が三〇代のころ結晶させた軽妙無類な童謡七〇編を収録。巻末に中山晋平作曲「兎の耳」「こんこん小狐」「みぞれ」を付載。著者は昭和九年より雑誌「童話童謡」を主宰した。

■『銀の鈴』相馬御風／装画 竹久夢二
大正一二年四月 春陽堂（解説 磯部孝子）
詩集「睡蓮」等で知られる御風の童謡集。草木虫魚や月・雪を歌った名編二八編を収録。弘田龍太郎作曲「うちの猫」「かなかな蟬」、中山晋平作曲「花摘み」「春が行く」「夏の雲」の楽譜を添付。

昭和に入り、童謡第二世代である与田準一、異聖歌が活躍する一方、全国で郷土色豊かな作品が生まれた。

■『旗・蜂・雲』与田準一／装幀 与田準一
口絵 北原白秋／挿絵 恩地孝四郎・棟方志功
昭和八年六月 アルス（解説 長谷川潮）
雑誌「赤い鳥」「コドモノクニ」「近代風景」「チチノキ」に載り北原白秋に絶賛された諸作品を一巻にまとめる。「母さま、母さま、たかいたかいしてよ……」と親しまれた「たかい たかい」も収録。

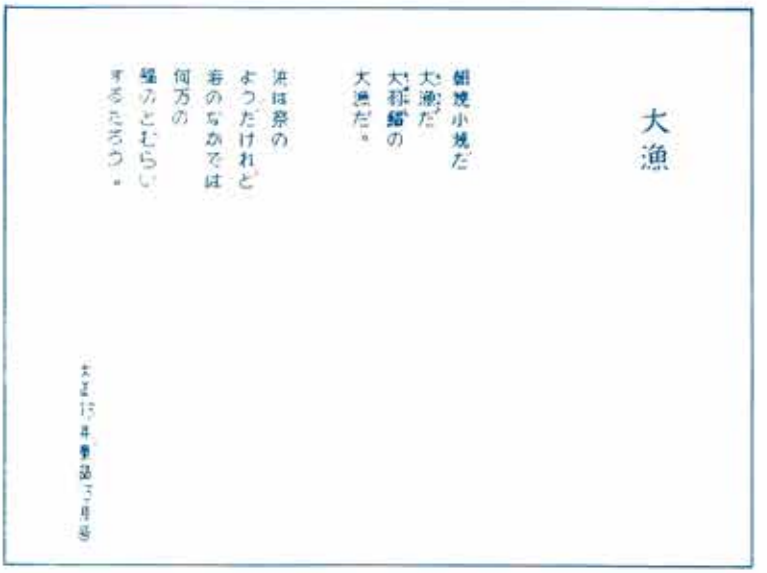
■『童謡集 雪と驢馬』異聖歌／装幀・挿絵 深沢紅
昭和六年一二月 アルス（解説 佐藤通雅）
与田準一とともに童謡界の双璧と称された異聖歌。「童謡をより高い詩へと展開せしめた」と白秋が激賞した「水口」を巻頭に据えたこの書は、童謡史上の一大金字塔である。八〇〇編中から著者自らが精選した五八編を収録。

■『雀の木』佐藤義美／挿絵 福田新生
昭和七年六月 高原書店（解説 西山利佳）
「童謡による子供の生活の高揚」を意図した著者の面目躍如たる童謡集。中学生時代から童謡作りに励んだ著者の真摯な姿勢が鑑賞する者の心を打つ。巻末に中山晋平作曲「てふてふの町」「電車」等五曲の曲譜を併載。

＊この案内は
本書発刊時 のものです。
（大空社　1996-1997 年）

近代日本を代表する童謡詩人・画匠が紡ぎ

■『天葉詩集』白鳥天葉（省吾）／装幀　和田英作
大正五年三月　新少年社（解説　宮崎芳彦・尾崎るみ）
「森羅万象をあどけなき音律の裡に表はし、また少年の至純なるこころを香かに偲ぶこと」（著者「はしがき」）を胸に懐いて詩作に励んだ著者の作品集。雑誌「新少年」に発表したものを中心に七〇余編を収録。巻末に散文「生立ちの記」併載。



大漁

朝焼小焼だ
大漁だ
大鰯鯨の
大漁だ。

浜は祭の
ようだけれど
海のなかでは
何万の
鰯のとむらい
するだろう。

金子みすゞ「歯と墓」より

■『歌時計』水谷まさる／装幀・口絵　伊十川孚
昭和四年六月　行人社（解説　根本正義）
詩・童謡・童話・翻訳と広範囲の文学活動で世に親しまれた著者の生んだ小さな一冊。「ジャム地獄」「トランプちゃん」「ほんとにしないけど」等愉快な視点と愛らしさとがほほえみを誘う五三編を収録。

■『僕等の詩集』サトウ・ハチロー／装幀　河目悌二
挿絵　川上四郎・河目悌二・黒崎義介・加藤まさを
須藤しげる・島田啓三・本田庄太郎・武井武雄・小林和郎
昭和一〇年一〇月　大日本雄弁会講談社（解説　宮中雲子）
〈永遠の少年〉ハチローの真髄が遺憾なく発揮された少年詩集。少年たちのさまざまな情景をとらえた豊富な挿絵と相まって童心を呼び起こす七〇余編。戦後、うたごえ運動などで広く歌われた「百舌よなくな」を収録。

■『柴木集』島田忠夫／表紙　小杉未醒／扉絵　万鉄五郎／挿絵　森田恒友・小杉未醒・万鉄五郎・石井鶴三
カット絵　川上四郎／扉字　坂井代作
昭和三年六月　岩波書店（解説　上田信道）
「おほく好んで材を田野に採り、農家を写し、村童を描いた」（著者「巻末記」）童謡詩集。大正末年から四、五年間につくられたものより三〇余編を自選。どのページからも「敬虔」「清新」「樸素な雅味」をもつ「真の童謡詩人」（吉江喬松『柴木集』に）の作品世界を充分に堪能することができる。

「夕日」「てるてる坊主」「浜千鳥」など
大衆派詩人の愛唱歌が生まれ、
ひろく子どものこころに沁みこんでいった。

■『五島列島』近藤益雄／装幀　相沢謙一
昭和九年六月　北方教育社（解説　上　笙一郎）
〈今良寛〉と称された近藤益雄の第二童謡集。長崎県五島列島でのくらしに材をとった六〇余編を収録。枯淡で、生一本で、愛が純粋で、子供のまゝな玲瓏の心境を」（千葉春雄「序」）もつ近藤の、一徹な人間性を感じさせる作品集。

■『スズキ　ヘキ―童謡集』スズキヘキ
装画　谷内六郎／挿絵　スズキヘキ
昭和五〇年七月　おてんとさんの会（解説　宮川健郎）
「原始童謡」の旗を掲げたスズキヘキの代表作を精選・収録。郷土に根づき、地方の豊かな世界を活写した童謡をつくった。その独自の郷土性故に普遍的作品までに昇華させたユニークな童謡詩人。

詩情豊かな女性の感性から
かろやかで可憐な童謡の世界が
紡ぎだされる。

■『雪こんこお馬』権藤はな子
昭和七年九月　凡人社（解説　野口存彌）
「ささの　は　さらさら……」と愛唱された「たなばた」の原形である「七夕さん」をはじめ、「大寒小寒」「うさぎうさぎ」等の郷土童謡の改作・補作を含む七〇余編を収録。巻頭に「かごめかごめ」（坊田かずま編曲）等四曲の曲譜を掲げる。著者は野口雨情の弟子。

■『風』武内俊子／装幀　杉山剌生／挿絵　初山滋
昭和八年一一月　歌謡詩人社（解説　西巻のりこ）
童女の頃（「栗林」「お空の路」「田の田の蛙」）から、桃割髷の娘（「まんまる月夜」「十五夜お月さん」）を経て、妻・母となり、子供のお守りをし（「お夢の車」「アカシヤの歌」）、母としての喜びを知る（「月夜のお祭」「こままおいで」）まで、女性としての著者の半生を辿る童謡集。野口雨情の序を付す。

野口雨情、竹久夢二、蕗谷虹児、金子みすず……

大正期、白秋、八十、雨情らの有名詩人によって一挙に童謡が大きく華開く。

■『花咲爺さん』北原白秋／表紙・扉絵　武井武雄
挿絵　武井武雄・岡本帰一・清水良雄
大正一二年七月　アルス（解説　関口安義）
白秋童謡第五集。〈昔のうた〉〈虫のうた〉〈お山のうた〉〈ねんねこうた〉等の部立てで、巨匠の真骨頂をうかがわせる五〇余編を収録。版元のアルスは白秋の弟・鉄雄の経営する文学書を中心にてがけた出版社。挿絵二四点を添える。

■『少女純情詩集』西条八十／装幀　加藤まさを
挿絵　加藤まさを・田中良・林唯一・川上四郎・須藤しげる・蕗谷虹児・河目悌二
昭和七年一〇月　大日本雄弁会講談社（解説　菊永謙）
乙女とその周辺に取材した彫心鏤骨の一〇〇編。多数添えられた可憐な挿絵が更に興をかきたてる。「私が少女たちの為に書いたといふよりは、寧ろかれらの優しい純情が私を鼓舞して書かせた有難い贈物である」（著者「はしがき」）。

■『青い眼の人形』野口雨情／装幀　蕗谷虹児
口絵　寺内万治郎／挿絵　寺内万治郎・武井武雄・蕗谷虹児
大正一三年六月　金の星社（解説　柴村紀代）
大正一〇年刊行の第一童謡集『十五夜お月さん』以後の作品を採録した第二童謡集。いまでも愛唱されている「赤い靴」をはじめ、「青い眼の人形」「千代田のお城」など有名な童謡が多数収録された名品集。

■『お日さま』三木露風／装幀・恩地孝四郎
挿絵　石井了介
大正一五年一〇月　アルス（解説　和田典子）
欧風の意匠を果敢に取り入れた童謡童詩集。童謡九〇余編、童詩一九編。「黒い服きた神父さま」「天主様」「日曜日」といった力トリック教徒としての著者の内面をかいま見させる童謡も。巻頭に山田耕筰作曲「ちんころ小犬」「母鳥子鳥」「春の磯辺」を収載。

■『童謡　よしきり』山村暮鳥／装画　斎田喬
表紙題字　山村玲子
大正一一年七月　イデア書院（解説　吉田定一）
民衆詩派の詩人と称された暮鳥のこころあたたまる柔和な童謡集。表題作をはじめ「葱のぼんぼ」「かやつり草」等野外の風物をほがらかに歌った童謡四〇余編を収載。山田耕筰編曲「夜切鳥」等四曲の楽譜を挿入。

■『鸚鵡の唄』川路柳虹
大正一五年一一月　新潮社（解説　谷萩弘人）
新潮社「童謡詩人叢書」第五編。表題の由来は、童謡創作に自信がなく、「どうやら童謡らしき形のものは出来てきたが、所詮まだ人真似たるを免れまい。」（著者「序言」）ということから。八〇余編を収める。

■『童謡　白兎と木馬』葛原𬜬
装幀・口絵・挿絵　清水良雄
大正一一年一月　文教書院（解説　石井妙子）
葛原𬜬第一童謡集。著者が雑誌「小学校」「幼年世界」「少年世界」等に発表した五〇〇あまりの童謡のなかから誰もが親しみやすいもの九九を選出。「ぎんぎん　ぎらぎら……」と誰もが口ずさんだ「夕日」も収録。

■『青ぞらのとり』浅原鏡村／装幀　遠山陽子
昭和二年二月　フタバ書房（解説　高橋忠治）
著者が編輯していた雑誌「少女の友」で発表された童謡やノートに書きためていた未発表詩等八〇余編を収録。巻頭には著者作詞・中山晋平作曲「てるてる坊主」を譜面付きで掲載。

■『童謡集　ばあやのお里』大村主計
昭和七年二月　児童芸術社（解説　佐々木美砂）
「田園的童謡詩人」大村主計が過去の作品三〇〇余編中より三〇余編を自選した童謡集。日本では稀有な田園的童謡の作り手が、さまざまな題材をもとに紡ぎ出した素朴かつユーモラスな世界。「十五夜お月様　一人ぼち……」の「花かげ」も収録。

■『鹿島鳴秋童謡小曲集』鹿島鳴秋
装画　初山滋
昭和四年七月　京文社（解説　草野明子）
「金魚の昼寝」「お山のお猿」など大正八年から昭和四年まで一〇年間における成果を集大成。巻頭には人口に膾炙した「浜千鳥」（弘田龍太郎作曲）や江沢清太郎・草川信による五編の曲譜を掲げる。

サトウ・ハチロー「僕等の詩集」より

■『蘭と墓』金子みすず／装幀・孔版画　津田顕男
昭和四五年九月　季節の窓詩舎（解説　島田陽子）
女性独特の優雅でファンタジックな作風で知られる薄幸の詩人・金子みすずの初めての童謡集。表題作のほかは、代表的作品「お魚」をはじめとして大正一二年から一五年に至る雑誌「童話」掲載作品を収集した。

■『童謡詩集　えのころぐさ』真田亀久代
表紙・扉絵　若山憲
昭和四八年六月　現幻社（解説　こわせ　たまみ）
著者は日本婦人会議宮崎県本部初代議長。朝鮮での教員生活等、長年月の体験からしぼり取られた情感を女性特有の視点で捉え返し、平易な表現で切々とうづった二二編を収める。

「赤い鳥」「プロレタリア童謡」「まざあぐうす」等　近代童謡の傑作アンソロジーを収録。

■『日本童謡集（一九二五年版）』童謡詩人会編
大正一四年六月　新潮社（解説　畑中圭一）
泉鏡花、河井酔茗、北原白秋、西条八十、相馬御風、サトウ・ハチロー、島崎藤村、薄田泣菫、竹久夢二、野口雨情、浜田広介、横瀬夜雨、与謝野晶子、若山牧水、小川未明ら当時の代表作家の名編を網羅し、巻末に童謡年表を付す。

■『赤い鳥童謡集』北原白秋編
昭和五年一一月　ロゴス書院（解説　西田良子）
児童文学界を開拓し導いた雑誌「赤い鳥」の創刊号から第二二巻第三号までのに掲載された童謡のうち優れた作品を選抜。与田準一・巽聖歌の両俊英をはじめとして一〇七名の作者による一〇〇編を収録している。

北原白秋、西条八十、

＊この案内は
本書発刊時 のものです。
（大空社　1996-1997 年）

赤彦、牧水の歌人も、童謡運動に参加し、大きな成果をあげる。

■『赤彦童謡集』島木赤彦／装幀　平福百穂・森田恒友／挿絵　川上四郎
大正一一年四月　古今書院（解説　石井光恵）
アララギ派歌人として『太虚集』『柿蔭集』をのこした赤彦は六人の子の父であり、また小学校教師として子供たちの世界を見つめていた。名歌人のもうひとつの側面を伝える四〇余編を盛った童謡集。

■『小さな鶯』若山牧水／装幀・挿絵　川島昌介
大正一三年五月　弘文館（解説　万屋秀雄）
旅と酒とをこよなく愛した歌人・牧水の童謡一八編を収める。ほがらかな叙景と生命への悲しみが渾然一体となった放浪歌人の人間味に触れ得る好詩編。巻頭に本居長世作曲「ダリヤ」の楽譜を収載。

北原白秋「花咲爺さん」より

抒情画家のファンタジックな絵筆から愛らしい童謡もまた誕生した。

■『合歓の揺籃』加藤まさを
大正一〇年一二月　内田老鶴圃（解説　永田桂子）
幼き日「画描き坊主」と呼ばれた著者がはぐくんでいたほのかな夢が結晶した詩画集。「椰子の果」「お人形」等の代表的作品のほか五〇余編をおさめ、また多色刷り一二点をはじめを愛らしい挿絵を豊富に収録する。

■『鳳』竹久夢二
大正一五年一二月　研究社　（解説　滝沢典子）
抒情画の巨匠・夢二が画と詩とを惜し気もなくふんだんにちりばめた、愛好家垂涎の童謡集。本書は大正最後の年の年末に発行されており、とりもなおさず大正期抒情芸術の掉尾を飾るものであった。

■『抒情詩画集　花嫁人形』蕗谷虹児
昭和一〇年一〇月　宝文館（解説　岩崎真理子）
「きんらんどんすの帯しめながら……」あまねく知られた表題作をはじめとして著者の多才ぶりをうかがわせる名品五〇余編を収める。あるときは少年少女詩的に、またあるときは小唄調に、巧みに描き分けた美麗な挿絵をふんだんに収載。

■『小さい同志』槇本楠郎・川崎大治共編
装幀・扉絵　室順治／口絵　鈴木賢二
昭和六年七月　自由社（解説　大藤幹夫）
プロレタリア童謡を集めた貴重な作品集。岡一太、米村健、牧耕助、川崎大治、松山文雄、織田顔、武田亜公、伊東欣一、槇本楠郎の手になる童謡を採録。未開拓のプロ児童文学研究に好個の参考資料を提供する一冊である。

■『まざあぐうす』北原白秋訳
見返・扉絵　恩地孝四郎
大正一〇年一二月　アルス（解説　吉田新一）
「白秋童謡集第三集」と題して刊行された英国童謡集。白秋が「創作すると殆ど同様の熱意と熱心とを」（白秋「巻末に」）翻訳に傾けた本書は、原書の機知・風刺・諧謔等を如実に伝え、夙に名訳として定評がある。三色刷り挿絵六点収録。

■『Songs for Children : Sung in Japan』上原征生訳
口絵　鏑木清方
昭和一五年二月　北星堂書店（解説　原昌）
北原白秋・西条八十・野口雨情・清水かつら等一〇余名の代表的童謡を英訳。外国人に日本語独特のリズムを伝えるためのローマ字表記を併載。翌年に日米開戦をひかえての発刊である本書は、まさに童謡史上また海外交流史上の一記念碑と言えよう。

別巻『叢書日本の童謡　解説書』

Ⅰ　日本童謡のあゆみ　上笙一郎
Ⅱ　各書解説　専門研究者
Ⅲ　童謡研究文献目録　畑中圭一編

加藤まさを「合歓の揺籃」より

○お断り○　本の状態について
本叢書は刊行年が古いため、一部に函・表紙・小口等に経年劣化が見られますが、本文は概して良好で閲覧に支障ありません。

＊掲載の挿画、文字等は本叢書の色調とは異なります。

〈原本装幀に準じた複製版〉

複刻　叢書 日本の童謡

全 38 冊＋別巻解説書　上笙一郎（かみしょういちろう）編（大空社 1996-1997 年刊）

■児童文化を彩る大正・昭和の代表的作品で日本の童謡の世界を再現
■原本は稀覯本、丁寧な複製で挿画・装幀の色彩・装飾とともに味わう！

収録作品〈解説者〉（別巻に収録）

［第 1 回配本　19 点］

詩集 ふる郷　有本芳水（大正 7）〈溝手恵理〉
口語詩新体詩 浜千鳥　星野水裏（明治 44）〈佐藤光一〉
名作童謡 少年の歌　児玉花外（大正 11）〈谷悦子〉
天葉詩集　白鳥省吾（大正 5）〈宮崎芳彦・尾崎るみ〉
花咲爺さん　北原白秋（大正 12）〈関口安義〉
少女純情詩集　西条八十（昭和 7）〈菊永謙〉
青い眼の人形　野口雨情（大正 13）〈柴村紀代〉
お日さま　三木露風（大正 15）〈和田典子〉
童謡 よしきり　山村暮鳥（大正 14）〈吉田定一〉
鸚鵡の唄　川路柳虹（大正 15）〈谷萩弘人〉
ひろすけ童謡集 小鳥と花と　浜田広介（大正 14）〈向川幹雄〉
銀の鈴　相馬御風（大正 12）〈磯部孝子〉
歌時計　水谷まさる（昭和 4）〈根本正義〉
僕等の詩集　サトウ・ハチロー（昭和 10）〈宮中雲子〉
柴木集　島田忠夫（昭和 3）〈上田信道〉
雪こんこお馬　権藤はな子（昭和 7）〈野口存彌〉
風　武内俊子（昭和 8）〈西嵜のり子〉
繭と墓 金子みすず童謡集　金子みすず（昭和 45）〈島田陽子〉
童謡詩集 えのころ草　真田亀久代（昭和 48）〈こわせたまみ〉

［第 2 回配本　19 点＋別巻］

赤彦童謡集　島木赤彦（大正 11）〈石井光恵〉
小さな鳶　若山牧水（大正 13）〈万屋秀雄〉
童謡 白兎と木馬　葛原しげる（大正 11）〈石井妙子〉
青ぞらのとり　浅原鏡村（昭和 2）〈高橋忠治〉
童謡集 ばあやのお里　大村主計（昭和 7）〈佐々木美砂〉
鹿島鳴秋童謡小曲集　鹿島鳴秋（昭和 4）〈草野明子〉
合歓の揺籃　加藤まさを（大正 10）〈永田桂子〉
凧　竹久夢二（大正 15）〈滝沢典子〉
抒情詩画集 花嫁人形　蕗谷紅児（昭和 10）〈岩崎真理子〉
旗・蜂・雲　与田準一（昭和 8）〈長谷川潮〉
童謡集 雪と驢馬　巽聖歌（昭和 6）〈佐藤通雅〉
雀の木　佐藤義美（昭和 7）〈西山利佳〉
五島列島　近藤益雄（昭和 9）〈上笙一郎〉
スズキヘキ童謡集　スズキヘキ著・スズキヘキ友達会編（昭和 50）〈宮川健郎〉
日本童謡集 1925 年版　童謡詩人会編（大正 14）〈畑中圭一〉
赤い鳥童謡集　北原白秋編（昭和 5）〈西田良子〉
小さい同志 プロレタリア童謡集　槙本楠郎・川崎大治編（昭和 6）〈大藤幹夫〉
まざあぐうす　北原白秋訳（大正 10）〈吉田新一〉
Songs for Children: Sung in Japan 日本童謡集　上原征生訳（昭和 15）〈原昌〉
別巻『日本 童謡のあゆみ』

別巻『日本 童謡のあゆみ』（上笙一郎編）＊分売可
総説・解説・童謡研究文献目録（畑中圭一編）
童謡作品名 / 作者・作曲者名索引　A5 判・上製・360 頁
4-7568-0378-4　定価 6,600 円（本体 6,000 円＋税 10%）

全巻揃 残部 数組
（2023.7）

＊分売不可
（一部の巻は分売可。お問合せください。）

全38冊＋別巻　揃定価294,758円（本体 267,962円＋税10%）

第 1 回配本（1996 年 9 月）　4-7568-0305-9　揃定価 147,379 円（本体 133,981 円＋税 10%）
第 2 回配本（1997 年 3 月）　4-7568-0306-7　揃定価 147,379 円（本体 133,981 円＋税 10%）

資料に命を 作品に心を 形にして伝える。
学術資料出版
大空社出版
TEL:03-5963-4451　FAX:03-5963-4461
eigyo@ozorasha.co.jp
東京都北区中十条 4-3-2（〒114-0032）

お取扱い